

子どもの遊びの実態について

大平 滋

(浜松短期大学)

遊び空間、遊び仲間、日常的遊び はじめに

今日、子どもの人間関係の希薄さや、生活技能の未熟さが、各種の調査により明らかにされ、教育問題としてクローズアップされている。人間形成にとって重要な多種多様な人間関係や生活技能の形成は、学校教育や現実の家庭や地域の教育力では、もはや十分に育成されることができなくなっている。子どもは、文化の伝達や人間関係の形成などの多くを、遊びや遊び集団を通して達成していくものである。そこで本研究は、子どもの発達保障にとって必要な遊びは何であり、またその遊びはどのように保障されていくべきなのかを究明することをめざしつつ、その前段階として子どもの遊びの実態を明らかにしたい。

子どもの遊びの研究には、三つの段階が考えられる。第一段階は、子どもの遊びの実態調査、遊び環境の実態研究。第二段階は、子どもの遊びを保障していくためには、どのような方法があるか、または思想としてどうあるべきかを究明していく研究。第三段階は、遊びを保障するためには、具体的にどのような手だてがあるのか具体案を提示する研究である。この段階はさらに実践された場合は絶えず再検討をしていかなければならない。ところで、今までの研究は第一段階のものが多く、さらにその研究の結論も抽象的、理想的な課題の提示が主で、なかなか研究が蓄積されていない。しかし、遊びを保障するための具体案を提示するためには、その地域における子どもの実態把握は必要である。全国規模で子どもの遊びの調査などをするが、その調査結果からは具体案は出てこないであろう。ひとつの目安、または比較の対象である。なぜならそれぞれの地域により微妙に実態は異なるからである。子どもの遊びを保障するためには、その地域の子どもの遊びの実態を把握することにより、保障しなければならない環境や手だてを考えなければならない。

なお本研究は昭和62年度の科学研究費による研究「子どもの人間関係・生活技能の形成と学校教育に関する実証的研究」の一環である。

目的

本研究は浜松市の子どもの遊びの実態を明らかにすることを目的としている。調査では、幼稚園児・保育園児も対象にしているが、本研究では原則として小学生の実態分析を中心とし、子どもの学年による変化や性差による変化を考慮しながら検討していく。

調査方法

1. 調査対象：浜松市内の幼稚園児・保育園児及び小学生。対象地域は3小学校区内で、古くからの市の中心部である

M小学校区、比較的市の中心部であるJ小学校区、市の周辺部で農村・新興住宅地・市営団地があるI小学校区である。小学校3校、幼稚園5カ所、保育所1カ所。

2. 調査方法：質問紙法。幼児及び小学校3年生までは保護者が子どもから聞いて答えている。

3. 調査時期：昭和62年11月

4. 有効回収数：655（男子331、女子324）全体では1025（男子506、女子519）

5. 有効回収率：95.9%（全体では93%）

6. 質問紙の構成：質問紙は、子どもの行動傾向を遊び、人間関係、生活技能、生活経験、学校外教育、生活状況（食生活、自立度、テレビ）などのカテゴリー（96項目）でとらえ、子どもの生活実態を調査し、年齢や性差、その他の環境による行動変容を調査できるように項目を構成した。

フェイスシートは、子どもの「年齢」・「性別」・「家族構成」・「日常生活時間」・「居住地域」及び両親の「年齢」・「最終学歴」・「職業」から成り立っている。

6. データ処理：NEC・PC-9801VX・プログラム「Lotus1-2-3」で行った。

1. 子どもの遊びの実態

子どもの遊びの調査報告で、今日の子どもの遊びの内容の乏しさや遊ばなくなった傾向がよく指摘される。その原因として「さん間」がなくなったと言われている。つまり遊び時間、遊び空間、遊び仲間が乏しくなったと言われる。そこで本報告もこの3つの視点を踏まえながら実態を分析してみる。

1) 遊び時間について

遊び時間については、「ふだんの日の生活時間について」それぞれ「テレビを見ていた」「家の中で遊んでいた」「外で遊んでいた」「外出（買物のおとも、けいごと、など）」について何分しているかを聞いてみた。表1、表2は、それぞれの学年別の平均時間の結果である。

表1、2をみよ。まず男子は、テレビ視聴時間は平均110分と自由時間のすごし方では最高である。3年生と5年生が比較的少なく、6年生が一番多い。室内遊びは、6年生が少ないがあとは余り変化がない。外遊びは、1～3年生までは95～110分と多く、その後は減少していく。外出は余り変化なく40～50分ぐらいで、3年生と6年生が比較的多い。つまり、1～3年生までは、テレビと戸外遊びがほぼ同じ時間あり、その他に室内遊びも盛んであるため遊び中心の生活がある。4～5年生は戸外遊びが減少するが室内遊びは維持されているのでまだ遊びは確

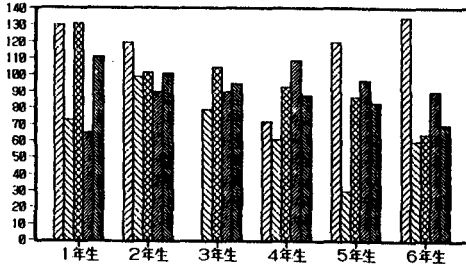
表1. 男子自由時間の過ごし方(単位:分)

項目	テレビ視	室内遊び	戸外遊び	外出時間
1年	112	75	111	38
2年	110	73	101	51
3年	99	87	95	57
4年	113	68	88	45
5年	98	77	83	47
6年	121	65	70	55

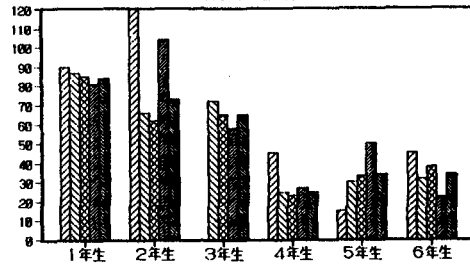
表2. 女子自由時間の過ごし方(単位:分)

項目	テレビ視	室内遊び	戸外遊び	外出時間
1年	92	80	84	49
2年	102	80	73	63
3年	103	77	65	73
4年	100	65	25	63
5年	107	48	34	63
6年	116	58	34	64

グラフ1. 居住地と戸外遊び時間
男子(単位:分)



グラフ2. 居住地と戸外遊び時間
女子(単位:分)



山 海 たんば 住宅街 商店街 平均

山 海 たんば 住宅街 商店街 平均

表3. 友達との遊び時間 男子

項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1時間	14.5%	17.8%	31.7%	28.6%	21.4%	15.4%
2時間	58.1%	64.4%	31.7%	32.1%	35.7%	26.9%
3時間	16.1%	6.7%	10.0%	8.9%	3.6%	5.8%
4時間	4.8%	0.0%	6.7%	0.0%	1.8%	0.0%
5時間以上	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%
遊ばない	6.5%	11.1%	11.7%	23.2%	35.7%	50.0%

表4. 友達との遊び時間 女子

項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1時間	30.4%	26.9%	33.3%	23.5%	15.7%	14.8%
2時間	53.6%	55.8%	33.3%	13.7%	7.8%	9.3%
3時間	7.1%	3.8%	10.0%	0.0%	5.9%	0.0%
4時間	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%
5時間以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
遊ばない	7.1%	13.5%	20.0%	60.8%	66.7%	72.2%

表5. 遊び場所 男子

項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年
自分の家	53.2%	57.8%	38.3%	39.3%	35.7%	65.4%
友達の家	56.5%	48.9%	56.7%	50.0%	46.4%	50.0%
学童	1.6%	0.0%	5.0%	5.4%	1.8%	0.0%
道路	21.0%	15.6%	15.0%	7.1%	16.1%	1.9%
公園	29.0%	26.7%	35.0%	33.9%	48.2%	26.9%
校庭	8.1%	2.2%	6.7%	17.9%	14.3%	9.6%
空き地	6.5%	17.8%	15.0%	19.6%	12.5%	13.5%
家の庭	11.3%	15.6%	11.7%	7.1%	14.3%	5.8%
神社	1.6%	2.2%	3.3%	5.4%	1.8%	0.0%
その他	4.8%	2.2%	1.7%	5.4%	0.0%	3.8%

表6. 遊び場所 女子

項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年
自分の家	58.9%	73.1%	63.3%	78.4%	66.7%	66.7%
友達の家	62.5%	67.3%	68.3%	37.3%	41.2%	44.4%
学童	3.6%	0.0%	0.0%	3.9%	2.0%	0.0%
道路	10.7%	13.5%	11.7%	15.7%	21.6%	9.3%
公園	21.4%	13.5%	16.7%	19.6%	21.6%	20.4%
校庭	5.4%	5.8%	11.7%	7.8%	9.8%	13.0%
空き地	3.6%	5.8%	3.3%	3.9%	3.9%	13.0%
家の庭	23.2%	17.3%	15.0%	17.6%	17.6%	9.3%
神社	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%
その他	0.0%	3.8%	8.3%	2.0%	0.0%	3.7%

保されているといえる。6年生になると自由時間はテレビが中心で遊びが極端に減少する。外出は全学年通して女子に比べて少ない。

女子は、テレビ視聴時間は平均103分で学年による変化は余りみられず、男子同様6年生が一番多い。室内遊びは、1～4年生までが比較的多く高学年になると減少する。戸外遊びは、1～3年生までが比較的多く、4年生以降急激に減少する。また4年生以降室内遊び中心となる。外出は2年生以降平均的に増え男子と比べて多いのが特徴的である。つまり、1～3年生はテレビも見るがそれ以上に遊び（戸外・室内）が盛んであり、これに対し4年生以降は戸外遊びが極端に減少し、テレビ、室内遊び、外出が中心となり活発な遊び経験や人間関係の機会が減少している。特に6年生はこの傾向が顕著である。戸外遊びは全学年を通して男子の方が女子に比べて大幅に多い。（ただし、幼稚園年長児だけがわずかで男子を上回っている）

さて、ここで居住地域と遊び時間の関係についてみてみよう。居住地域は、「山、海」「たんぼ、畑」「住宅地」「商店街」「工場」の5つの地域に分類したが、「工場」が1名しかいないため事実上4つの地域の分類となった。ここでは戸外遊びの時間について検討してみる。グラフ1、2がその結果である。男子では、居住地域が山、海の子（人数が少ないためか平均時間が多くなる傾向がある。また3年生は一人もいないため0となっている。）は、全体の平均時間と比べて比較的多い。また、たんぼ、畑の子は、全学生とも平均以下であった。住宅街の子は、1～3年生までは平均以上であるが、4年生以降減少する。つまり、学年が上にいくほど戸外遊びの時間が減る。これに対し、商店街の子は、1～3年生までは平均以下であるが、4年生以降に平均以上になる。時間は全学年を通して大きな変化がない。

女子は、山、海の子が平均と比べて比較的時間が多く、全体的に4年生以降、急激に戸外遊びの時間が減少する。そしてこの減少については地域による特徴はみられない。次に友達との遊び時間をみてみよう。表3、4のように、まず男子では1～5年生は「2時間」が多く特に1、2年生は60%前後と多い。「4時間」では3年生、1年生、5年生に若干あり、「5時間以上」は3年生だけいる。また「遊ばない」は学年とともに増加し、4年生以降急増する。特に6年生は50%と多い。ここにも、6年生のテレビ中心の孤立的な自由時間のすごし方がうかがえる。これに対し女子は、1～3年生は「2時間」を中心（30～55%）に「1時間」30%前後となる。4年生以降になると「遊ばない」がまさに激増し60%以上となり、6年生は72.2%にもなる。女子の4年生以降の室内の孤立的なすごし方は特に顕著で、男子より女子の方が人間関係を築く遊びや活発な遊びが失われており、人間関係をつくる遊びの危機的状況といえる。

2) 遊び空間について

①遊び場について

遊び空間については「どこで遊ぶことが多いですか」という問いに対し、表5、6の項目から2つ選んでもらった。男子は、全体的に自分の家、友達の家が多い。1年生、3～5年生は自分の家よりも友達の家の方が多く、室内遊びでも友達や自分の家を交互に使用しながら友達と遊んでいると考えられる。遊びの内容としては表9から考えて1年生はファミコン、ごっこ遊び、おもちゃ遊びであり、3年生以降はファミコンである。戸外では比較的公園が多く、特に5年生は48.2%と多い。5年生はある程度のオープンスペースが必要なスポーツ系の遊び（野球、サッカー、ボール遊び）をするためであろう。また、道路・路地、校庭、空き地なども、全学年を通してある程度の使用が認められる。ここでは、ある程度のオープンスペースを必要とするスポーツ以外の遊びである自転車乗りやボール遊びをするものと考えられる。

女子は、室内遊びが中心なため自分の家、友達の家が圧倒的に多い。自分の家は全学年を通して60%以上と遊びの中心的空間になっている。また友達の家は、1～3年生は平均66%と多いが、4年生以降になると大幅に減少する。遊びの内容としては表9から、1～3年生は幼児の延長的な遊び（ごっこ遊び、人形遊び、ままごとなど）が中心となり、友達と一緒に遊んでいるといえる。低学年が自分の家で遊ぶ時は、絵かき、読書・絵本を中心にして遊び、4年生以降は、テレビ、ファミコン、読書をしているといえよう。戸外では、低学年では男子に比べて家の庭が多く、そこではごっこ遊び、人形遊び、ままごと、鬼ごっこなどで遊んでいる。公園は男子に比べて多くなく、オープンスペースを必要とする遊びも少ない。若干道路・路地での遊びが多いが、ここでは高学年は、ローラースケート、鬼ごっこ。3年生以下は、なわとび、ゴムとび、鬼ごっこをしている。

ところで、居住地域と遊び場について検討してみよう。表7は全学年の男女を合計したものの平均である。表7によると、「山、海」の子は全地域を通して「自分の家」が一番多く、戸外では「家の庭」と「空き地」が中心である。また他の地域と比べると「神社・寺」などで遊んでいる。次に「たんぼ、畑」の子は「自分の家」「友達の家」「家の庭」が多い。このように「山、海」「たんぼ、畑」の子は、自然があってもその自然を遊び空間として利用できず、家や家の周辺を中心とした狭い遊び空間で遊んでいるといえる。「住宅街」の子は、他の地域から比べれば「自分の家」「友達の家」は少なく、「公園」「道路・路地」「校庭」が多い。「商店街」の子は、他の地域から比べて「友達の家」が一番多く、また少数ながら「学童クラブ・図書館」も多い。これに対し家の庭が狭いせいか、他の地域に比べて「家の庭」が一番少なくなっている。

②公園の利用状況と意見

次に、遊び空間の保障をするとき真っ先に考えられる公園

表7. 居住地と遊び場 (全学年男女合計)

項目	山, 海	たんぼ, 畑	住宅地	商店街	平均
自家	71.4%	67.0%	51.8%	60.8%	57.7%
分家の	42.9%	53.0%	48.7%	63.8%	53.0%
学童・図書	0.0%	0.9%	1.3%	5.4%	2.0%
道路・路地	4.8%	12.2%	15.2%	9.2%	13.3%
公園	14.3%	16.5%	31.5%	17.7%	26.3%
家庭	0.0%	2.6%	11.7%	10.0%	9.5%
空き地	23.8%	8.7%	9.1%	10.0%	9.8%
庭	23.8%	27.8%	11.9%	3.8%	13.8%
神社・寺	9.5%	0.0%	0.8%	3.1%	1.4%
その他	0.0%	2.6%	3.8%	1.5%	3.1%
無回答	9.5%	8.7%	9.1%	14.6%	9.6%
人数	21	115	394	130	653

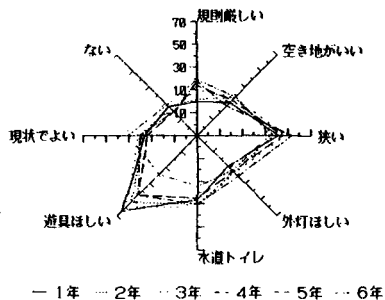
表8. 公園遊び 男子

項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年
よく遊ぶ	17.7%	20.0%	18.3%	21.4%	25.0%	17.3%
ときどき遊ぶ	53.2%	37.8%	48.3%	28.6%	42.9%	30.8%
余り遊ばない	25.8%	40.0%	31.7%	48.2%	30.4%	46.2%
ない	3.2%	2.2%	1.7%	1.8%	1.8%	5.8%

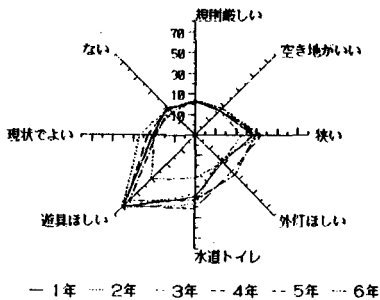
女子

項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年
よく遊ぶ	16.1%	5.8%	6.7%	7.8%	3.9%	1.9%
ときどき遊ぶ	53.6%	40.4%	38.3%	43.1%	39.2%	33.3%
余り遊ばない	25.0%	44.2%	46.7%	45.1%	51.0%	55.6%
ない	5.4%	7.7%	8.3%	3.9%	3.9%	7.4%

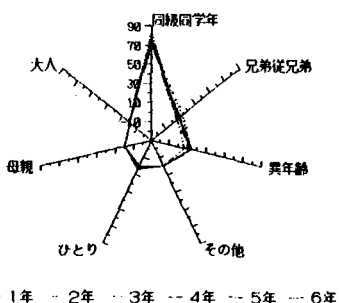
グラフ3. 公園に対する意見 男子(単位・%)



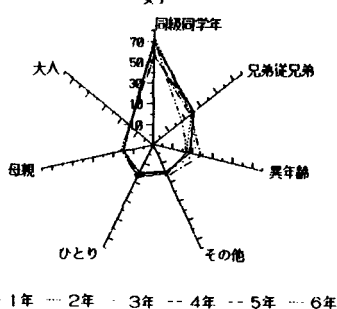
グラフ4. 公園に対する意見 女子(単位・%)



グラフ5. 遊び友達(単位・%) 男子



グラフ6. 遊び友達(単位・%) 女子



について検討してみよう。まず公園の利用状況であるが、表8のようになる。

1. 3. 5年生は「ときどき遊ぶ」「よく遊ぶ」が多い。特に表5のように5年生はよく利用している。2. 4. 6年生が「あまり遊ばない」が多いのは、2年生は空き地で工夫しながら変形したサッカー、野球をしたり、鬼ごっこをしているからであろう。また、家の庭も遊び場になっている。4年生は校庭、空き地でサッカー、ボール遊び、野球をし、6年生は室内が遊びの中心なため公園を余り利用しない。以上のことから、戸外では、遊びの中心は公園であることはまちがいないが、利用の密度には学年差がある。つまり、1年生の遊び空間は、公園、道路・路地。2年生は公園の他に空き地、道路・路地、家の庭と少し広がる。3年生は公園を中心に、道路・路地、空き地。4年生は公園の他に空き地、校庭となり、5年生は一番遊び、その空間も一番広範囲で豊かである。公園を中心にあらゆる空間を利用している。6年生は室内中心である。

女子は、1年生が比較よく利用しているが、その他の学年は男子に比べ利用率が低い。女子のよくする遊び(表9)や友達との遊び時間(表4)などをみても、うなずけられる結果である。女子の戸外での遊び空間をまとめてみると、全体的に少ないながらも公園と家の庭それに道路・路地、が中心で、自分の家の周辺が遊び場といえる。男子と比べ空き地は遊び場になっていない。

では、この戸外遊びの中心的空間である公園に対して、子ども達はどのように考えているのだろうか。8項目(「きまりがきびしい」「空き地のままのほうがよい」「場所が狭い」「外灯(あかり)がほしい」「水のみ場、トイレがほしい」「遊具がもっとほしい」「今のままでよい」「遊んだことがないのでわからない」)から思っていることをいくつかも挙げてもらった。その結果がグラフ3、4である。

男子は、全体的に遊具がほしいと狭いというのが多い。遊具に関しては低学年が、狭いというのは5年生を中心に3、4年生に多い。6年生は利用率も低く、室内中心であるため公園に対する意見も少なく現状肯定が多い。これは肯定というよりも、自分達の遊び空間として余り認識していないので関心がないためといえる。規則がきびしいというのは、学年が上にいくほど多くなる。子ども達が日常的に利用する公園が小さな児童公園が中心なためであろう。外灯がほしいも一番利用する5年生に多い。また、現状でよいと答えた子が多いM小学校区は、広大で設備の整った浜松城公園(総合公園で10.68畝)がある。

女子は、男子同様遊具がほしいと狭いが多く、学年による変化も男子と同様である。また、水のみ場、トイレがほしいも平均30%と高率である。特にトイレがほしいというのは女子にとって切実である。小さな公園といえどもすべての公園に水のみ場、トイレ、外灯は最低必要条件であろう。女子の遊び内容にもよることだが、規則がきびしいと思っている子はほとんどなかった。男子同様6年生は戸

外遊びから遠のいているため公園への関心が薄いといえる。

3) 遊び仲間について

遊び仲間については、友達との遊び時間については前述の通りなので、ここでは遊び友達について検討してみる。「主にだれと遊びますか」という質問にたいし7項目(「クラスか同じ学年の友達」「きょうだいやいとこ」「自分より年上かまたは年下の友達」「その他」「ひとりで遊ぶ」「母親と」「その他のおとなと」)から1つだけ選んでもらった結果がグラフ5、6である。

男女とも学年による変化は余りみられず(特に1~5年生までは)、若干男女差が確認できる。まず男子では、同級または同学年が全学年年平均7.4%と高率で、残りは全学年年平均、異年齢が12%、きょうだいやいとこが9%となり、2~3年生は若干きょうだいやいとこが他の学年と比べて多くなっている。女子は、同級または同学年が全学年年平均6.5%と高率であるが、その次にきょうだいやいとこが17%と多い。異年齢は9%であり、3~5年生は比較きょうだいや異年齢と遊んでおり、それぞれ2つの合計パーセントは3年生32%、4年生29%、5年生34%となっている。年下のきょうだいやいとこをみながら異年齢集団の世話をしているのであろう。

2. 子どもの日常的遊びと、したい遊び

①子どもの日常的遊び

子どもは、ふだんの日どのような遊びをしているのであろうか検討してみよう。「ふだんの日、どのような遊びをしますか」という問いにたいして、具体的によくする遊びを3つ書いてもらった結果が表9である。

学年別に検討してみると、まず男子であるが、基本的にはスポーツとファミコンが中心となっている。この基本パターン以外では、1年生は自転車の他ごっこ遊び、おもちゃ遊びという幼児の延長的な遊びをしている。2年生は幼児の延長的な遊びはなくなりつつある。3年生はドッチボールが高率を示しこれが特徴といえよう。4年生は自転車がまだ19.6%と多い。自転車は4年生までよく乗られる。またゲーム遊びもするようになる。5年生はファミコンよりもスポーツなどの戸外遊びが中心といえる。6年生はファミコンが中心で61.5%と激増する。

さて、ここでファミコンやスポーツをする子の遊び空間について検討してみよう。ファミコンやスポーツをする男子の全学年の結果が表10である。ファミコンをする子の遊び空間は、男子の全学年年平均(全学年の遊び場の割合)から比べると、「自分の家」「友達の家」が多く、戸外の遊び空間はどれも平均以下である。これに対し、スポーツ(サッカーと野球)をよくする子の遊び空間は、特に「公園」が多く、また「空き地」や「家の庭」も多くなっている。平均と比べて「自分の家」や「友達の家」は少なく、戸外が遊び空間になっている。

また、ファミコンをよくする子どもの中でスポーツもよ

表9 よくする遊び（原則として15%以上）

1年		男子	内容	女子
NO	内容			
1	ファミコン	38.7%	ごっこ遊び	23.2%
2	サッカー	22.6%	人形ごっこ	21.4%
3	プロ野球	19.4%	絵かき	21.4%
4	自転車遊び	17.7%	自転車	21.4%
5	野球	17.7%	自転車	17.9%
6	水球	16.1%	まわりご	17.9%
7	野球	16.1%	おわり	16.1%
8	おもちゃ	14.5%	なわとび	16.1%

2年		男子	内容	女子
NO	内容			
1	ファミコン	46.7%	絵かき	26.9%
2	サッカー	35.6%	鬼ごっこ	25.0%
3	野球	26.7%	ごっこ遊び	21.2%
4	自転車	20.0%	人形ごっこ	21.2%
5	鬼ごっこ	17.8%	読書	17.3%
6			まわるとび	15.4%
7			自転車	15.4%
8			自口スケ	15.4%

3年		男子	内容	女子
NO	内容			
1	サッカー	43.3%	ゴムとび	36.7%
2	野球	38.3%	人形ごっこ	28.3%
3	ファミコン	28.3%	ボール遊び	16.7%
4	ドッジボール	21.7%	なわとび	15.0%
5	自転車	16.7%	ごっこ遊び	15.0%
6	自転車	16.7%		

4年		男子	内容	女子
NO	内容			
1	ファミコン	50.0%	絵かき	27.5%
2	サッカー	33.9%	テレビ	21.6%
3	ボール遊び	21.4%	鬼ごっこ	19.6%
4	自転車	19.6%	人形ごっこ	17.6%
5	野球	17.9%	読書	15.7%
6	ゲーム	16.1%		

5年		男子	内容	女子
NO	内容			
1	野球	42.9%	口スケ	21.6%
2	ファミコン	37.5%	鬼ごっこ	21.6%
3	サッカー	28.6%	読書	19.6%
4	ボール遊び	25.0%	ゲーム	15.7%
5	ゲーム	14.3%	テレビ	15.7%
6	鬼ごっこ	14.3%		

6年		男子	内容	女子
NO	内容			
1	ファミコン	61.5%	トランプ	22.2%
2	サッカー	44.2%	ファミコン	20.4%
3	野球	36.5%	鬼ごっこ	18.5%
4	ゲーム	13.5%	テレビ	18.5%
5			ゲーム	14.8%

表10. ファミコン, スポーツをする子と遊び場 (男子全学年)

項目	ファミコン	スポーツ	平均
自分	57.2%	37.9%	47.7%
分家	60.9%	48.6%	51.7%
の・団	0.0%	0.7%	2.4%
道	9.4%	11.4%	13.0%
学	30.4%	43.6%	33.5%
道	8.0%	10.0%	10.0%
公	10.9%	16.4%	13.9%
校	6.5%	12.1%	10.9%
空	2.2%	2.9%	2.4%
庭	4.3%	3.6%	3.0%
家	10.1%	12.9%	10.3%
神			
無			
人	138	140	331

表11. したい遊び (10%以上) 1年~6年

NO	男子		女子		男女共通	
	内容	学年数	内容	学年数	内容	学年数
1	サッカー	6	鬼ごっこ	6	ボール遊び	9
2	野球	6	なわとび	5	ファミコン	8
3	ファミコン	5	ボール遊び	4	サッカー	7
4	ボール遊び	5	口スケート	4	鬼ごっこ	7
5	自転車	1	棒	2	なわとび	6
6	ごっこ遊び	1	野球	2	サッカー	5
7	絵かき	1	ボール	2	口スケート	4
8	ドッジボール	1	ごっこ遊び	2	ドッジボール	3
9	鬼ごっこ	1	ファミコン	2	ごっこ遊び	3
10	かくれんぼ	1	ドッジボール	2	絵かき	3
11			かくれんぼ	2	自転車	2
12				2	棒	2
13						
14					棒	2

くする子の割合は次のようである。1年生37.5%、2年生66.7%、3年生47.1%、4年生46.4%、5年生61.9%、6年生54.8%である。つまり、男子の遊びの基本型であるファミコンとスポーツの実態は、ファミコンを中心に室内遊びをするグループ、スポーツを中心とした戸外遊びをするグループ、それにファミコンとスポーツの両方をするグループの3つのグループに分けられる。

次に女子であるが、1、2年生は幼児の延長的遊びともいえるごっこ遊び、絵かき、人形遊び、ままごとなどが中心で、2年生頃からローラースケートもするようになる。3年生は幼児の延長的遊びでもある人形遊びやごっこ遊びもしているが、ゴムとび、ボール遊び、なわとびと活発な遊びが中心となり、幼児的遊びの脱皮の時期といえる。4年生は絵かき、テレビ、読書と室内遊び中心である。5年生はローラースケートや鬼ごっこなどの戸外遊びと読書、ゲーム、テレビなどの室内遊びとが半々である。6年生はトランプ、ファミコン、テレビ、ゲームと室内遊び中心である。つまり、戸外遊びでは鬼ごっこが比較的多く、自転車は低学年ほど多く、ローラースケートは5年生が多く、他の学年でも行われており、女子に人気のある遊びである。室内遊びでは、トランプは上級生に多く、人形遊びは1~4年生に多い、テレビは4年生以降に増加してくる。

また、よくする遊びを学年別に10%以上のものだけを挙げて該当学年数(男子6学年、女子6学年)で比べてみると、鬼ごっこ(10学年)自転車(9学年)ボール遊び(8学年)ゲーム(7学年)ファミコン(7学年)読書・絵本、サッカー、野球(6学年)ローラースケート、絵かき(5学年)という順になっている。

②子どものしたい遊び

したい遊びもよくする遊び同様に3つ書いてもらった。表11は各学年別に、したい遊びが10%以上のものを挙げ、その挙げられた学年数で整理したものである。

男子は、サッカー、野球、ファミコン、ボール遊びが圧倒的に多い。ここでもスポーツとファミコンという基本パターンがでてきている。女子では、鬼ごっこ、なわとび、ボール遊び、ローラースケートが多い。男女とも戸外遊びで、なおかつ集団遊びが上位にきている。若干遊びに豊かさがないように思われる。特に男子のスポーツとファミコンという基本パターンは豊かな遊びの経験が少ないのだろうか。今後検討する必要がある。

おわりに

子どもの遊びの実態を学年別、性別に検討してきて、子どもの遊び全体にいえることと、学年や性別による違いによる特徴などがあることが明らかになった。ところで、最近の子どもの遊びの調査などからその特徴として典型的に集約してとらえる傾向がある。例えば「現代の遊びは①室内で、②ひとりきりで、③体を動かさずに、④商品化されたものを相手に、⑤受身の形で過ごす『孤立型』の性格を強めている。したがって、遊びが、群れ型から孤立型へ変質したのであって、それを集約したのが、すでにふれた『鬼ごっこからテレビへ』の変化となる。」(11)という指摘である。確かに今回の調査でもこの傾向はあったが、子どもすべてにあてはまるものではない。厳密に言えば調査の対象地域も違い一概に比較できないが、年齢や性別による違いが大きいといえる。先に類型化された遊びの特徴は、

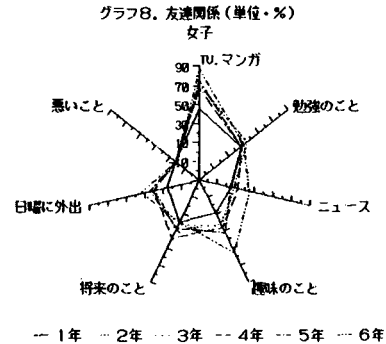
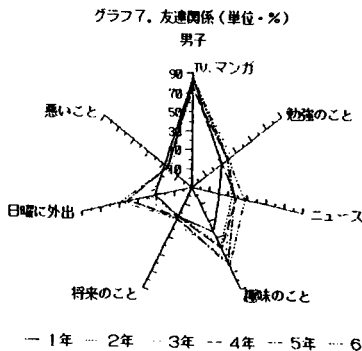


表12. 遊びを楽しくするもの 男子

項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年
広い場所	82.3%	64.4%	60.0%	71.4%	62.5%	65.4%
自由な時間	43.5%	46.7%	51.7%	67.9%	58.9%	61.5%
友達	61.3%	66.7%	50.0%	41.1%	53.6%	48.1%
お金	3.2%	8.9%	20.0%	7.1%	12.5%	13.5%
その他	6.5%	2.2%	3.3%	3.6%	3.6%	0.0%

遊びを楽しくするもの 女子

項目	1年	2年	3年	4年	5年	6年
広い場所	71.4%	65.4%	55.0%	49.0%	45.1%	35.2%
自由な時間	50.0%	51.9%	68.3%	66.7%	74.5%	70.4%
友達	73.2%	61.5%	66.7%	66.7%	58.8%	72.2%
お金	3.6%	0.0%	8.3%	3.9%	5.9%	7.4%
その他	1.8%	3.8%	1.7%	2.0%	2.0%	1.9%

6年生や女子の高学年にはあてはまるが、男子の5年生をはじめ男女の低学年はそれなりに遊んでいる。また、全体的に「鬼ごっこ」もまだ健在である。このことから、全国規模の調査や大まかな調査からでる典型的な特徴を鵜呑みにはできないと言えよう。ひとつの目安として参考にはできるが、実際の子どもの遊びの保障のための参考にはならないであろう。実際の子どもの遊びを保障するためには、それぞれの地域で詳細な実態調査をし、その実態に見合った手だてが必要である。

また、他の調査でも指摘されており、今回の調査でも明らかになったことで重要なことは、今日の遊びの状況の中で人間関係を形成することがむずかしくなっていることである。子どもは多種多様な異年齢集団の遊びの中で、遊びを伝達したり、人間関係を学んだり、生活技術を修得するものである。グラフ5、6からも遊び仲間の均一化は明かであり、さらにその友達と過ごす時間(表3、4)も少なく、また友達との関係も表面的になっているといえよう。グラフ7、8は友達との付き合い方について7項目から該当するものいくつでも挙げてもらった結果である。

男女共、「テレビやマンガのことによく話す」が多く、男子は「趣味(スポーツ、つり、写真)などについてよく話す」が学年が上がるとともに増大し、女子は「おとなになってから何になるか、何をしたいかについてよく話す」が比較的多い。「悪いことをいっしょにする」は男女共ほとんどない。

ところで、「遊びをより楽しくするためには何がほしいですか」という問いについて、5項目(「広い場所」「自由な時間」「気のあった友達」「たくさんのお金」「その他」)の中から2つえらんでもらった。その結果は表12のようである。男子は、広い場所が一番多く全学年平均約68%で、以下自由な時間と友達が約53%である。

女子は、自由な時間と友達が平均約64%で、広い場所は53%であった。また低学年は広い場所を求め、高学年は自由な時間を求めている傾向がある。

以上のように調べてきた結果を踏まえ、豊かな人間関係をつくる遊びを保障するためには、日常の遊びにおいて新たな異年齢集団の形成とそれを支えるプレリーダーと遊びのネットワークが必要であると考えられる。今後はこれらの具体的な手だてを検討していきたい。

1985年。

酒匂一雄、南里悦史『子どもの発達と日常生活』ぎょうせい、1984年。

NHK世論調査部『いま、小学生の世界は一統・日本の子どもたち』日本放送出版協会、1981年。

羽根木ブレーパークの会編『冒険遊び場がやってきた!』晶文社、1987年。

吉田昇編『学校外教育』亜紀書房、1979年。

拙稿「子どもの遊び研究(1)ー子どもの発達保障と遊びー」『浜松短期大学研究論集』第35号、1987年。

教育基礎情報調査会編『教育アンケート収録年鑑、1986年版』主婦の科学社、1985年。

注1. 深谷昌志「産業化社会の中での子どもたち」『教育学研究』第52巻第3号(昭和60年9月)日本教育学会、16^頁~17^頁。

参考文献

仙田満『こどものあそび環境』筑摩書房、1984年。

蘭田碩哉『遊びの構造論』不昧堂出版、1983年。

高橋たまき『乳幼児の遊びーその発達プロセス』新曜社、1984年。

藤本浩之輔『子どもの遊び空間』日本放送出版協会。